

授業科目	異文化間コミュニケーション I				実務家教員担当科目	-					
単位	2.	履修	選択	開講年次	2	開講時期	前期				
担当教員	Kristen Maree Sullivan										
授業概要	この授業では、異文化コミュニケーション論の主要な概念や理論について学ぶ。これらを応用しながら、文化とコミュニケーションが関わる社会問題や日常の異文化コミュニケーションを考察することを通して、異文化コミュニケーションのあり方を探っていくことを目的とする。また、異文化トレーニングのアクティビティを通して異文化コミュニケーションに対する理解を深めることや異文化コミュニケーション能力を高めることをめざす。										
授業形態	講義	授業方法	ディスカッション・グループワーク・プレゼンテーション Google フォームを利用して理解度を測り、振り返りを行う。								
学生が達成すべき行動目標											
標準的レベル	1. 異文化間コミュニケーションの重要な概念を理解することができる。 2. 文化背景の異なる人に対して、開かれた心と態度を持つことができる。										
理想的レベル	異文化間コミュニケーションについて学んだことを、自分のことばで説明でき、またその知識や理解を応用することができる。										
評価方法・評価割合											
評価方法	評価割合（数値）			備考							
試験											
小テスト											
レポート	100%			① 振り返り課題（1回5点、50点）、② 期末レポート（50点）							
発表（口頭、プレゼンテーション）											
レポート外の提出物											
その他											
カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング											
DP1	-	DP2	-	DP3	○	DP4	○	DP5	○	ナンバリング	EN21302J
学習課題（予習・復習）										1回の学習目安 （時間）	
1. 教科書の該当部分を読むこと。 2. ケーススタディの予習を行うこと。 3. 振り返り課題に取り組むこと。 4. 期末レポートの準備に取り組むこと。										4	
授業計画											
第1回	オリエンテーション 授業の概要および目標、履修方法などを説明する。 異文化間コミュニケーションを学ぶ意義についても考える。										

第2回	異文化コミュニケーションの基礎概念 「文化」、「コミュニケーション」、「異文化コミュニケーション」とは何か。異文化間コミュニケーションを学ぶにあたり重要な基礎概念を確認する。
第3回	自己とアイデンティティ 「自己」について考えた上で、「自己像」や「アイデンティティ」のコミュニケーションや文化、社会との関係について考える。
第4回	異文化コミュニケーションの障壁 「ステレオタイプ」、「偏見」、「差別」について確認し、ステレオタイプや偏見に陥ってしまわないための対処法について考える。
第5回	ケーススタディ1 「自己とアイデンティティ」および「異文化コミュニケーションの障壁」についてより深く考えるためケーススタディによる考察を行う。
第6回	深層文化の探求 「文化的価値観と思考パターン」に焦点を当てながら、深層文化の姿を客観的に見る目を養い、異文化コミュニケーションの文脈においてどう活かせればよいかについて考える。
第7回	言語コミュニケーション 「言語コミュニケーション」とは何か。異文化間コミュニケーションにおいてどのようなことに注意すればよいかについて考える。
第8回	非言語コミュニケーション 「非言語コミュニケーション」とは何か。異文化間コミュニケーションにおいてどのようなことに注意すればよいかについて考える。
第9回	ケーススタディ2 「深層文化」、「言語コミュニケーション」、「非言語コミュニケーション」についてより深く考えるためケーススタディによる考察を行う。
第10回	カルチャーショックと適応プロセス 「カルチャーショック」、「異文化適応プロセス」、「人間的成長の過程としての異文化適応」、「異文化経験によって生じる文化的アイデンティティの変化」について考察する。
第11回	対人コミュニケーション 今までの学びを応用して、個人が文化的背景の異なる他者と人間関係を構築する際にどのような問題に遭遇し、またそれらにどのように向き合っていけばよいかについて考える。
第12回	ケーススタディ3 「対人コミュニケーション」についてより深く考えるためケーススタディによる考察を行う。
第13回	異文化コミュニケーションの教育・訓練1 異文化コミュニケーション能力とその育成を図る教育・訓練について考える。異文化コミュニケーショントレーニングのアクティビティを体験する。
第14回	異文化コミュニケーションの教育・訓練2 異文化コミュニケーショントレーニングのアクティビティを体験する。
第15回	全体のまとめ

	<p>第13回と第14回の授業で体験した異文化コミュニケーショントレーニングのアクティビティについて意見交換を行った後、授業全体のまとめを行う。</p> <p>期末レポートを書く際の注意点を説明する。</p>
テキスト	石井敏・久米昭元・中谷川典子・桜木俊行・石黒武人、2013、『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション』、有斐閣。
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	<p>久米昭元・長谷川典子、2007、『ケースで学ぶ異文化コミュニケーション—誤解・失敗・すれ違い』、有斐閣。</p> <p>その他授業中に指示する。</p>
課題に対するフィードバックの方法	振り返り課題に対するフィードバックは、次回の授業の中で口頭で総合コメントをしたり、 구글クラスルームの機能を用いて行います。
学生へのメッセージ・コメント	<p>1. 異文化理解・異文化コミュニケーション能力を成長させるには、振り返ることがとても重要です。授業内容、授業内容と自分、授業内容と自分が住んでいる社会について振り返る習慣を身に付けましょう。</p> <p>2. 授業内容に対する理解を深めるには、幅広い知識、問題意識を持つことも重要です。日ごろから新聞を読み、問題意識を持ちましょう。また、参考資料を紹介するので、積極的に読みましょう。</p>